

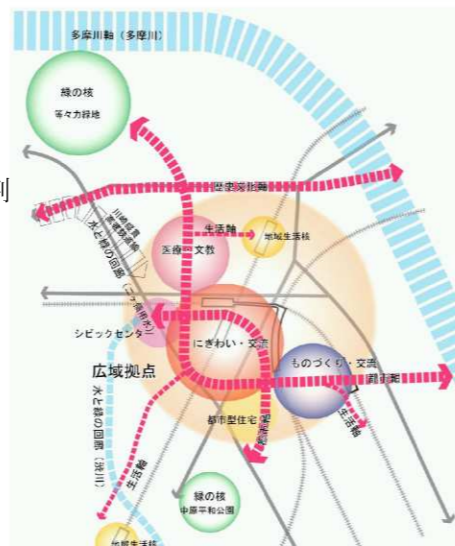
## ●等々力緑地再編整備基本計画検討資料

## 1 「等々力緑地再編整備基本計画」検討の主な論点

## ■ これまでの検討内容の確認

## (1) 等々力緑地の役割（「再編整備基本方針」等より）

- 良好な都市環境の核となる役割  
地球温暖化の防止、ヒートアイランド現象の緩和、生物多様性など良好な都市環境の提供
- 健康増進、スポーツ・レクリエーションの場を提供する役割  
レクリエーション活動、健康運動等だれもが憩い楽しめる場を提供  
川崎市のスポーツ拠点としてスポーツ・レクリエーションの場を提供
- 都市災害から市民を守る役割  
広域避難場所としての機能充実
- 豊かな地域づくり、地域の活性化の役割  
水と緑のネットワークの「緑の核」  
交流・連携の拠点となる緑とオープンスペースの確保



小杉駅周辺地区のまちづくり概念図

## (2) 都市公園法による制約

- 都市公園の敷地面積に占める建築物の建築面積（建ぺい率）の上限＝12％  
平成22年4月1日現在 10.4％
- 都市公園の敷地面積に占める運動施設の敷地面積上限＝50％  
平成22年4月1日現在 42.0％
- 設置することができる公園施設の種類  
園路・広場、修景施設、休養施設、遊戯施設、運動施設、便益施設、管理施設及びその他政令で定める施設以外は設置できない。

## (3) 「大規模施設」の緑地外への建設可能性

大規模施設（陸上競技場、硬式野球場など）の建設が可能な用地は見当たらない。

## (4) 下水処理施設上部の利用

地下に下水処理施設が存在するエリア（今後整備エリア含む）は、下水処理施設の維持管理に支障をきたす上部利用はできない。

## ■ 「再編整備基本計画」の論点

## (1) みどり・快適性・防災など公園機能の充実—まとまりのある緑、つながりのある緑—

公園の基本機能である「憩いの場」、「自然とのふれあいの場」、「環境教育の場」としての機能をより高めるため、緑と水について再整備する。  
また、災害時の避難場所の確保や周辺植栽による防災機能の向上、見通しや歩きやすさを考慮した緑の園路など安全・安心の場となる公園を目指す。

## (2) 限られた敷地の有効活用

魅力を高めて利用の拡大を図るため施設の多目的利用や集約化・複合化・立体化などを検討する。

## (3) 緑地内動線、緑地までの動線、エントランスの検討

- エントランスと施設を結ぶスムーズな動線
- イベント開催時、災害発生時の動線
- 施設間の連携

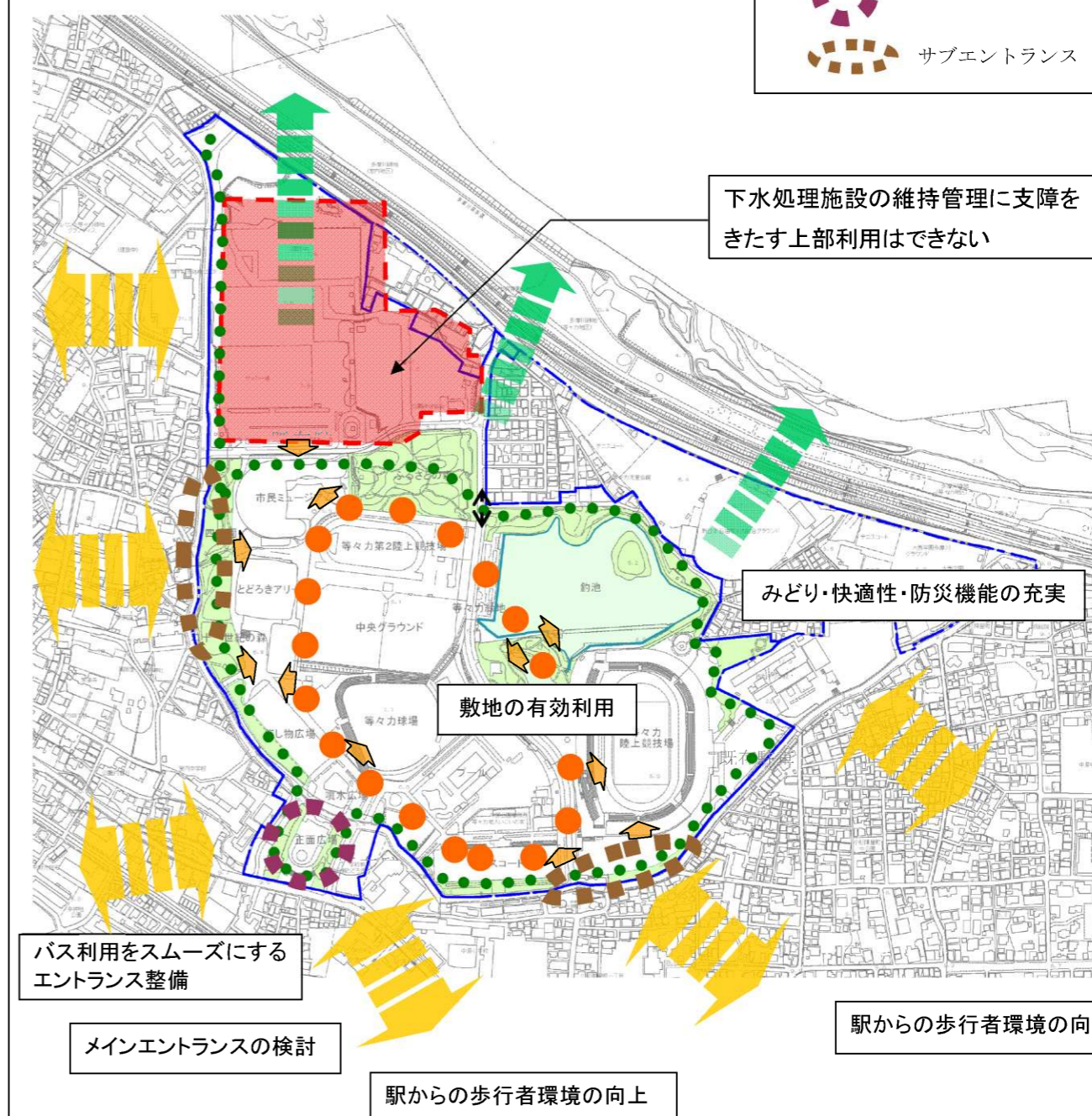
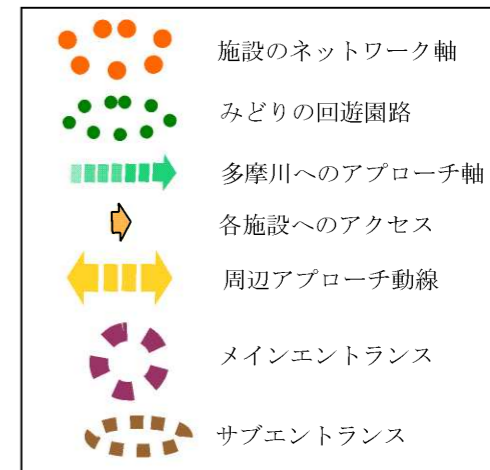
## (4) 周辺のまちづくりを考慮

周辺のまちづくりを考慮し、求められる機能と配置を検討する。

## (5) 民間が参画したくなる魅力ある計画

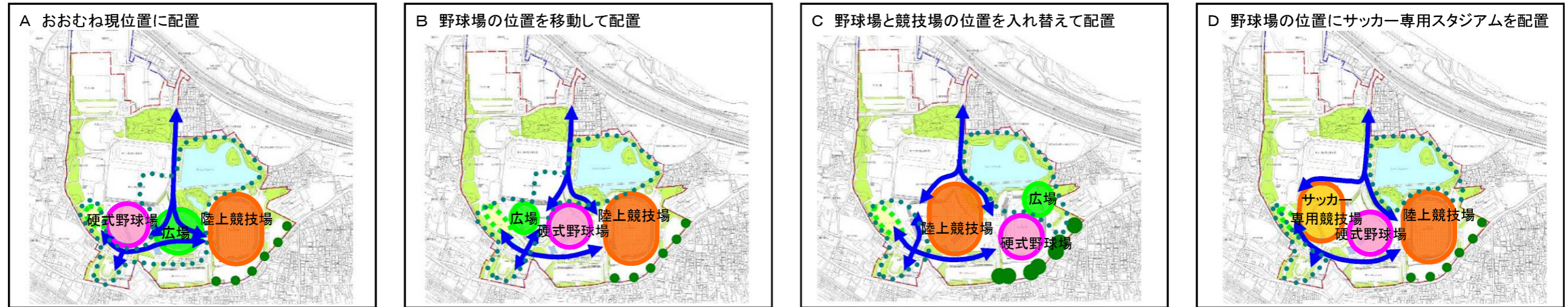
駐車場に近い、収益施設などが入りやすいなど、集客の見込める配置を検討する。  
また、計画段階など早い段階での民間参入も検討する。

## 論点のイメージ図



## 2 今回検討における比較の視点

### 【前回委員会】 ■配置パターンの例示



### ■主な意見

- 軸線が通り、植栽空間が多く公園らしいのでB案
- 施設利用としては、3つの施設が別々に使えるのでD案
- 建設期間など技術的な検討などを織り交ぜて案を絞る
- 建ぺい率の制限はクリアできるのか
- 緑地までのアプローチによって配置も変わる
- 施設間連携などの機能性向上も考えて検討したほうがいい
- 予算はとりあえず置いておいてよいのか
- 陸上競技場で何でも賄うのは限界ではないか
- フィルター=施設配置の原則を確立する必要がある
- 緑量、快適性、防災などの公園機能の充実（施設配置により阻害されないこと）
- エントランスからの動線
- 都市の成熟度と連動するアプローチ
- コストの話は、動線の切り回しなど本体よりも周辺の担保が必要となり、これから先は技術的な話となるため先の議論
- 高度化しつつまかなう
- 民間参加を視野に入れた魅力ある施設



### 【検討の前提条件】

#### ■建築物についての条件（都市公園法の制約条件）

- 建ぺい率の制限⇒公園面積の12%以下  
管理施設 2%、特例 運動施設、休養施設、教養施設、災害応急施設 +10%の上乗せ
- 運動施設率の制限⇒公園面積の50%以下

#### ■緑・オープンスペースの現状と再整備の方向性（緑量、快適性、防災などの公園機能の充実）

- 自由な利用が可能な空間

#### ■公園へのアプローチの考え方（都市の成熟度とアプローチ）

- 周辺アクセス  
・周辺道路計画との関係 ・各最寄り駅とのアクセス
- 公園へアプローチするポイント  
・メインエントランス ・サブエントランス

### 【配置に向けた視点】

#### ①緑・オープンスペースの確保と連携

- 多様なニーズに対応できる広場空間の確保
- オープンスペースの連携
- 公園のエントランスに相応しい空間の確保
- 拠点施設前の十分な余裕スペースの確保

#### ②利用者動線とネットワーク

- エントランスと拠点施設を結ぶスムーズな動線（イベント同時開催時、災害時の対応）
- 公園内の回遊性

#### ③災害時の動線と避難スペースの確保

- 災害時の避難スペース・アクセスの確保
- 外周植栽の確保

#### ④施工期間中の施設利用

- 各施設の閉鎖期間（利用できない期間）

### 【大規模施設の配置案】

- ゾーニング
- 配置検討

前回意見の中で「事業化に向けた視点」や高度化・複合化等施設の詳細に関わる部分については今後検討。